

第7回 各務原市学校建替基本方針策定委員会 議事録

日 時 令和5年8月25日(金) 13時30分～15時40分
 場 所 産業文化センター2階 第3会議室
 出席委員 鈴木賢一委員長、服部吉彦副委員長、奥村美樹恵委員、佐藤幹彦委員、
 篠田勲委員、熊崎健二委員、杉山幹治委員、尾関加奈子委員
 欠席委員 福島茂委員、阿部雄介委員
 議 題 議題1 各務原らしさと地域特性について
 議題2 安全安心な教育環境について
 議題3 アンケート調査(2回目)について

議事録

1. 開会宣言

2. 議題

議題1：各務原らしさと地域特性について

委員長	10名中8名の参加のため、有効に成立している。第6回委員会では、ワークショップの報告と給食調理場の話、中間報告について議論した。本日は3つ議題があり、審議をお願いしたい。特に議題1の各務原らしさと地域特性に関しては、基本方針の基本理念にかかわってくる重要な部分なので、活発な議論をお願いしたい。それでは、早速、説明を事務局よりお願いしたい。
事務局	資料説明 議題1 各務原らしさと地域特性について
委員長	説明を受けてご意見を頂きたい。
委員	「共に学び合うことができる学校施設」とあるが、小学校や中学校では、グループをつくった授業や地域のゲストティーチャーなどを呼んだ授業も実施されており、既に各小中学校では取り組みがされている。より深まるという印象が伝わるような表現が良いと思う。アンケート結果では、「他人を思いやる心を育む」ことや「他者とのコミュニケーション能力を高める」といった意見が多く、各務原市では、点数としては表しにくい「非認知能力」が求められているのではないかと感じる。学校や地域活動の場に自分の居場所を見出せるような、自己肯定感を高めることや非認知能力を伸ばすという視点があっても良いと思う。
委員	私も、「共に学び合うことができる学校施設」については、既に各小中学校で取り組んでいる部分もあると感じる。「学ぶ」という観点でいえば、コロナ渦で学校の休業期間があっても、インターネットなどを使って、自分で基礎知識をある程度得ることはできるが、人と関わり、社会性を育むという点においては、学校の存在意義として重要だと言われている。学校生活では学ぶ部分も当然大事であるが、「共に学ぶ」よりは違った表現が良いと思う。
委員長	「共に学びあう」よりは、「社会性を育む」といった表現にしても良いかもしれない

	い。
委員	文言まではわからないが、それに近い意味合いの表現が良いと思う。
委員	みなさんと同じ意見で、「学び合う」や「つながり」という表現はよく聞くが漠然としているので、それが学校施設整備の基本方針として相応しい指針になるのかは疑問が残る。少し意味合いが広すぎるような気がする。先ほどの「社会性を育む」という表現であれば、人と人とが交流する場をつくるなどの具体性がでる。もしくは別の視点で、家庭に居場所が作りづらいといったケースもあるなかで、例えば、「関わる誰もが居場所のある学校」とすれば、学校の中で居場所をつくるという点で、施設整備的に意味のある方針になるのではないかと思う。施設整備の理念としては、具体的に落とし込める表現にした方が良いと思う。あるいは、ビジョン、ミッション、バリューというように、段階的に作っていくということも一つの手かもしれない。
委員長	学校建替方針の理念として、施設を整備する指針としての言葉にした方が良いという意見である。教育の話ではなく、学校施設そのものに読み替えることができる方がいいような気がする。
委員長	いちばん大事な基本理念となるので、ここには違和感が無いようにしたい。みなさんの共感できる言葉に置き換えたい。キーワードをいただいて、再度事務局で代替案をいただくこととしたい。
事務局	様々な意見をいただき、次の案をお示しできれば良いかと思っている。事務局として、学びあうつながりを生むと書くと、新しく生む印象を与えるので、育むという表現にしてはどうかということも案としては考えてはいた。あくまでも学校施設を検討してもらっており、学校の先生方にはいまある学校の環境の中で、運用面で工夫することで、つながりを作ってもらっている状況。学習指導要領では、「多様な他者と協働しながら、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会への創り手となることができるよう必要な資質・能力を育むことが求められている」と示されており、これからは地域とのつながりもつくっていく必要がある。同世代だけでなく社会、地域など様々な年代の方々とのつながっていく必要がある。登校しにくい子も何かしらの形でつながれるようなことが求められていて、未知の状況に対応できる能力を育んでいく必要がある。そういったなかで、必要性に対応できるような学校施設としていくため理念としてこういった書き方をしている。あくまで案ですので、たたき台として策定委員のみなさんにご意見をいただき、それをもとに、代替案をつくっていききたいと考えている。
委員長	ワークショップ形式で検討する方が本当は良いように思うが、今はそのやり方を想定していない。いま事務局から説明頂いた部分は共感できるが、言葉の選び方だと思うので、再度検討いただきたい。社会性、多様性、居場所など重要なキーワードをいただいたと思う。40～50年前の学校の理念とは社会状況が変化しているので、これからの時代に合わせた表現にさせていただけたらと思う。

委員	「つながり」という言葉自体がもつ意味が多く、一貫した共通認識が持っていないと感じる。学校に来られない子と学校にいる子とのつながりと、学校に来ている者同士のつながりは違ったつながりとなる。解像度が低いように思う。
委員長	「つながり」という言葉自体は、どこでも普遍的に出てくる言葉だと思う。オリジナリティある解像度の高いものを見つけてきてくれば、各務原市らしくなると思う。もう少しとがった言葉をあえて使っても良いと思う。
委員長	学校施設の機能構成イメージやいくつかのシーンをイメージできるようにパースを書いてもらっているがご意見があればお願いします。
委員	【資料 2-2】従来型の小学校機能（例）と学校建替の機能構成イメージの対比について、特別支援学級が建替え後に出てくるのは違和感がある。
事務局	記載漏れのため、修正させていただく。
委員長	機能構成イメージについて、中学校と小学校の建替え後のイメージが、ほぼ同じ構造となっているのが気になる。
委員	従来型の中学校は教科担任制で、美術、技術、家庭などの専門的な教室がある。中学校では、機能構成イメージの中のコミュニケーションゾーンやサイエンスゾーンがもっと強調されたものになると思う。
委員	地域の学校であることを考えると、学校専用ゾーンと地域開放ゾーンとして分けることが今回の打ち出しには必要であると思う一方で、低学年が敷地の中で遠くまで移動することは実際問題なかなか難しい。すべてを開放してしまうのは問題が多いので、バランスがとても難しいと感じている。
事務局	中学校の方が、特別教室の利用頻度が高いということか。
委員	頻度も高いし内容も専門性が高くなる。
委員	生徒が使っていないときに地域の人が利用するというイメージか。
事務局	そうである。
委員	そうなると建物と管理面も重要なところになる。
事務局	本日の議題 2 において、セキュリティ関連についても審議いただく予定である。
委員長	建替え後の方は、教科に対応した専用の教室を一対一で対応させておらず、ゾーンとして区分けしている。
委員	現状は教科ごとに使う設備が違うので、教室が一対一で対応していると思う。
委員長	教科教室型として、全ての部屋を教科に割り当てて毎時間、児童生徒が動くところもあるが、そのことについては、本委員会では議論しにくい。ここではあくまで、学校専用ゾーンと地域開放ゾーンという二つのゾーンがあり、学校の中心部にラーニングセンターが位置付けられているということになる。小学校でラーニングセンターがある事例はみるが、中学校ではあまり見ないが、いかがか。中学校では少しイメージが違うと思う。
委員	この図を見ると、中央に大きな空間があり、周りを諸教室が取り囲んでいるような、大きな四角い空間の校舎をイメージする。考え方として示す分には良いと思

	<p>うが、実際に校舎を建て替える時はそのような敷地はなかなかないと思う。また、現在パソコン室はなく別の部屋に代わってきている。</p> <p>ラーニングセンターの図書スペースについて考えると、オープンなスペースで、地域の方もそこに入ることができ、本を読めるいすやテーブルがある。そんなところで児童生徒が本に親しめるというようなイメージが良いと思う。低学年、地域の方が絵本の読み聞かせをする場合も考えられる。地域の方が学校に来てどのような動きをするのか、子どもたちがどのような動きをするのか、イメージを持った上で、空間構成が出来上がると良い。</p>
委員	現状、開放しているのは体育館、運動場、中学校の場合は武道場もある。今回の案は、図書スペースや特別教室も開放していくということになるのか。
事務局	段階的にそういった動きになると思う。施設を使う側の考え方も追いついてこない、効果的な使い方にはつながりにくいとは思いますが、施設としてそうしたことができる施設とする。何十年先を見据えて計画を考えていきたい。
委員	特別教室などの個別の部屋を、民間の人が使う必要があるのか。お互いのメリットがあれば良いと思うが、単にいろんな部屋を貸し出すだけなのはデメリットが多いと思う。
委員	岐阜市にある岐阜小学校を例にだすと、空間的に非常にオープンな学校となっている。玄関から入ると、広い空間となっていて、その図書スペースには壁がなく、コンピューター用のスペースもある。特別教室はすべて1階に配置されていて、調理室では、地域の方が料理教室などをされている。小学校の横に公民館も併設されており、地域の方々が様々な活動をされている。コミュニティスクール用の部屋もあり、校舎との出入口は内外双方から施錠が可能で、コミュニティスクールの方が会議や行事の打合などに使っている。
委員	中学校は、調理室、被服室については、例えば地域の人にミシンを教えてもらったり、調理実習で地域の方に教えてもらったり、自治会主催の餅つき大会などで利用される可能性がある一方で、音楽、美術、理科、技術については、開放しても地域の方が入る可能性が低いので、地域開放ゾーンよりも学校専用ゾーンとして、授業スペースにした方が良いと思う。また、英語に関しては、現在の中学校では英語だけを別室でやることはないと思うが、小学校ではどうか。
委員	別教室である。
委員	このように、小学校と中学校では、教科によっても違いがある。
委員	新潟の学校を見学した際、地域の方が絵を描く指導をしている学校があった。その際に専門的な道具がそろっている美術室などを利用しているという事例はある。
委員	今の授業で和楽器を指導する機会があるので、琴などの指導をお願いすることはある。

委員長	場所だけあっても使えず、マネジメントをする方が必要である。教室の主宰やマネジメントがセットになり使える状況が整っていないと、使われないと思う。ただし、地域に開放すると、利用者が学校仕様の部屋では物足りず、音楽室なども防音室にしてほしい等、要求されるスペックが上がってくる。ただ学校教育ではそこまで必要ないなどの違いがある。
委員	従来の技術室でも、木工室と金工室があるが、金工室は現在使われていない。理科室も学校規模にもよるが、第1、第2理科室として分かれているケースもある。学校施設の建替時にもそういった状況を踏まえる必要がある。
委員	学校施設を開放するのであれば、子どもたちとの交流を主目的とした地域開放が必要だと思う。単に部屋を貸すだけであれば、市が保有する他施設で同じような用途の部屋とバランスをとっていく必要があると思う。
委員長	パースの方はどうか。
委員	無理やり「各務原らしさ」へ繋げている印象を受ける。単純に、自然の景観を取り込む、という表現ではどうか。「各務原らしさ」という表現が適切かどうか疑問がある。
委員長	補足説明はあるか。
事務局	どうしても「各務原らしさ」というつもりではなかったが、都会では緑は見えないなかで、各務原では顔を上げると各務原アルプスの景色が見えることは、当たり前かもしれないが、ありがたいことではないかと思いつけている。
委員長	イラストを入れて、イメージしやすくすることは良いと思う。この地域の自然を取り込むということはよいと思うが、あえて各務原アルプス、空、宇宙、大地を入れていくのが適切かどうか。これは設計レベルでの話になるのか、ここでいう「各務原らしさ」をどうとらえるか。
委員	「各務原台地」と言われて良いと思うかどうか。自然を取り込むや各務原の景観を大事に取り込むといった表現にし、「各務原らしさのイメージ」として強調しなくてもよいと思う。逆に、各務原らしさをしっかり考えるのであれば、基本理念に基づいた方が各務原らしさになるのではないかと思う。
委員	中部学院大学の各務原キャンパスを1つにしたイメージのような印象を受けた。一方で、各務原台地や各務原アルプスって何だろうと感じる。もっと違う表現でできればわかりやすいと思う。また、これを整備しようと思うとかなりのスペースがあると想像できる。各学校をつくり変えるとなると、いまの敷地で大丈夫なのか。かなりの敷地を拡大する必要があると思う。今の敷地の中で作り変えるのは難しいように思う。
事務局	ご指摘のことはあると思う。教室も広くしないといけない。単純にそれだけでも大きくなる。今のところ、大きくなる方向性しかない。節減できる部分はしたいと思うが、なかなかむずかしいのかなと思っている。
委員長	このイメージ図には大きな空間が書いてあるので想起させるが、従来の教室配置は目指していないというメッセージにはなると思う。ただ、今の敷地の中で、実

	現できるのかは不明確である。
委員	どこかの段階で仮設計をするということはあるのか。現状の土地に対してリアルに入るのかどうか、可能性を考えることができる。
事務局	策定委員会の中ではないが、並行して事務局の方でケーススタディの実施を検討しているところである。場合によっては、そのエッセンスを策定員会にフィードバックし、ご意見を頂く予定である。
委員長	形としてこんなものができるということを示すだけでも見せていただくと、希望の部分とあきらめの部分が見えてくる。
委員	もしかすると、周辺の土地を取り込むなども考えられる。 【資料 2-3】は各務原らしさをイメージしているのか、ラーニングセンターをイメージしているのかわからない。このままだと、ラーニングセンターに各務原らしさをいれようとしているように見える。
事務局	ラーニングセンターを中心に据えた学校づくりを各務原らしさにしていこうと考えている。
委員長	各務原らしさということ、ここまで出さなくても良いと思う。ラーニングセンターを主軸にしているということは、メッセージとしては伝わると思う。
委員	理念に基づく、ラーニングセンターのあり方が重要と思う。
委員	他自治体の小学校の中には、地域の方に教えていただく授業を取り入れているところもある。現代の学びは、座学の勉強だけでなく、地域社会からの学びも求められている。地域社会から学びが深まり、広がっている。だから学校には、地域とのつながりが求められている。ここに描くのであれば、田んぼ、畑のようなどころで子どもたちが地域の人から教えてもらっているようなイメージなどがあるとよい。学校の中だけで子どもの学びが成立するとは思えない。それぞれの地域性を生かす教育、学びがそれぞれの学校で求められていると思うので、あまり集約しすぎない方がよい。多様な学びをしている、それが各務原らしさではないかと思う。
委員長	各務原アルプス、空、宇宙、自然に取り囲まれた地域のバックの中に、学校施設があるという地域全体が学びの場となっていて、その中での学校の改築だという絵になると良いと思う。
委員	地域の伝統文化を地域の方が教えているような絵を追加してもよいと思う。ラーニングセンターで子どもと地域の人たちがそのような学びをしているような絵などがあるとよい。
委員長	地域の方との交流のイメージがわく絵にさせていただくと良いと思う。

議題 2 安全安心な教育環境について

事務局	(資料説明)
委員	各学校で防犯対策は把握しているのか。現状はどのぐらい設置されているのか。
事務局	各学校 3～4 台設置されている。
委員	現状、学校へ侵入しようとしたら、どこからでも入り込めてしまう。

	<p>平成 30 年の不審者対策が 97%とあるが、回答の中身は門扉や昇降口を閉じているかどうか等に関してである。防犯カメラの設置 58%も 1 台以上設置していればの数値になる。本当に子どもの安全安心を考えたのであれば、防犯カメラも多数必要である。</p> <p>文科省の 3つの視認性とあるが、職員室から門が見えるなどは重要だが、モニターを管理職などが確認できるように複数必要である。なかなか目視では限界がある。防犯カメラについてはもっと充実した方が良い。</p> <p>文科省から出されている不審者の対応に関しては、門扉は閉めることを原則としている。保護者の方にもお子さんの体調不良でお迎えに来た場合も、自分で門の開閉をしてもらっているため、スイッチで対応できればいいと思う。</p> <p>給食の搬入業者の出入りは、登下校で使っている門を使っているところが多い。保護者、業者の出入り、生徒の登下校などが混在し危ない。車両専用の門は必ず必要である。</p> <p>更に言うと、潤いある緑の環境とは反するが、大きな木々があれば台風の時は枝が折れて落ちてくるなど、非常に危険である。また管理も誰がするのかなど問題が出てくる。潤いと安全な場所の確保のバランスが悩ましい。</p> <p>もう 1 点入れていただきたいのは、最近多い非常変災時の対応に関して、校門等の出入り口が一つしかない学校は引き渡しが大変である。是非、異常気象時、特別警報等の非常変災時の対応への配慮も入れてもらえると良いと思う。</p>
委員長	モニターはいつも見ているものなのか。
委員	仕事しながらでも見られるし、複数の目で見られる場所にあると良い。
委員	絶えず危機感を持って見ないといけないのはつらい。何かで知らせがあるようなものがあればよい。
委員	技術的に難しいかもしれないが、顔認証があったらよいと思う。アラームなどのシステムとして解決できる方が先生方の負担も減り、良いように思う。技術的な解決策を将来的に取り入れることができるようにしておく必要がある。
委員	近年、侵入事案などの事例はあるか。
委員	先日有ったような先生が刺されたなどの事例は、学校間で情報を共有するようにしている。
委員	岐阜県内ではあるか。
委員	怪我に繋がるものはないが、侵入事案はいくつかある。
委員	<p>学校は、防災関係でいうと避難場所になる。避難場所になった時に何に配慮したら良いかという視点でみることも必要だと思う。体育館のトイレの数などもそうだが、なかなか簡易トイレでの対応などは難しいと思う。</p> <p>土砂降りなどの時には、車で迎えに来るので、運動場の一部にアスファルトの部分があると良いと思う。ただし、そうすると運動場は狭くなる。防災的な視点を含めた設計計画が求められると思う。一つの考え方として、有事の場合の避難場所として、教室を防災時に利用できるような工夫があってもよい。そうすると、</p>

	教室にものを置くことをどう考えれば良いのか、といったこともでてくる。建物の活用で毎年あるわけではないが、新しく整備するとなると、防災的な視点も踏まえて考えていく必要があると思う。
委員長	日常の安全と災害時の場面での対応について、避難所など、各務原市の避難計画の中で学校をどう位置付けるかとなるので、その中で考えていかないといけないと思う。これは必ず対応しなければいけない事柄であり、設計的にも必須条件のように思うので、しっかりと書いておかなければいけない。学校特有の考え方をうたっておくことは重要だと思う。現場の先生の意見を反映できれば良いと思う。

議題3 アンケート(案)について

委員長	アンケート案の説明をお願いしたい
事務局	(アンケートについて 資料説明)
委員	Q2 の地域開放のとらえ方であるが、図書館のような常時開放か夜間休日の開放を想定しているのか。
事務局	そのあたりを分けて伺いたい。
委員	Q5 児童生徒にとって、安全・安心の場所に関して、防犯上なのか、防災上なのか。下の設問も防犯面に特化していると思われるので確認したい。
事務局	これは防犯について聞いていきたいと考えている。
委員長	学校施設を使用したい人がどれぐらいいるか聞けないか。
事務局	マネジメントを含めて上で、利用したいかなどを伺う旨を追加する。
委員長	アンケート実施の時期はいつぐらいになるのか。
事務局	本日のご指摘を踏まえて調査票案を修正し、12月の委員会で報告できればと考えている。
委員長	特に意見がなければ、本日は以上にしたい。 次回は、体育館、運動場、避難所としての防災機能の話、トイレ、バリアフリー、配慮を要する子の空間についての議題になる。 引き続きよろしくお願ひしたい。本日は以上となる。

4. 今後のスケジュール (予定)

次回の第8回策定委員会は、10月23日(月)13:30～を予定。

以上